

# 女体百景

◇97◇

## ゆうれい女

細川

董 ただす  
／＼文とえ／哲学者

神戸は三宮の、海岸通りのビルの谷間に女が出るとい  
う話がかねて聞いていた。

ところが、八月の某日、

六甲山上での講演の帰り道、私の運転する車の中で、  
世話役のK子嬢から

「先生、私のマンションのビルの前に、毎晩、十二時頃  
になると変わった女が出るの知ってはる？」

「……」

「それが面白いのよ。私が帰る十一時頃に、ちょうど化  
粧してるのよね。入口のポストボックスの前で」

「どんな女？」

「もう大分ええ年よ。そやけど私ら女にはあんまり顔見  
せへんのでよく分からへんわ」

と、聞いたとたん私はハタと思ひ当たるふしがあつた。

／＼ひよつとして、あのオバケ女では？

オバケ女ともユウレイ女ともいうのである。このさい  
特に私は区別する必要を認めない。

もちろん多少のニュアンスの違いはある。

しかし、要するに一目見て「ハッ」とさせるようない  
わゆる「出た！」ないし「あっ」とのどまで出かかる、

あの、この世ならざる幽霊というか妖気というか、そう  
いう雰囲気を持ち、とくにその目つきでそう感じさせる

のが、私のいうオバケ女ないしゆうれい女なのである。

あの、またたきもせぬ、じつとみつめる青い目を見る  
と現世からあの世へ連れてゆかれそうに思うのである。

あの世といわなくても、どこかこの世ではない別の世

界へ吸い込まれそうなのである。

オバケ女は、最初からこちらを見ない。

まばたきもせず、どこか一点をじつと見つめているの  
だ。まるで人形のように。それだけ不気味なのである。

／＼もし、あの目でこちらを見つめられたらどうしよう  
という恐怖心をこちらへ与えるのである。

オバケ女といつてしまえば、子供っぽすぎたい方に  
なってしまうし、ゆうれいといつてしまえば、しとやかす  
ぎる。骨ばっているから。お分かりいただけますかな？

ゆうれい女は、もちろんやせている。色あさ黒く中高  
なエキゾチックな顔立ちだ。それなら美貌かというと一

概にそうともいえない。一見、美貌と見ること出来る  
場合もあるが、よく見るとそこはゆうれい女！

まゆが下がり、目尻も下がり気味、やはりゆうれい顔  
である。

「一辺、今晚でも見てみやはらへん？ 今からやつたら  
ちようど、ええ時間になるし」

と、K子嬢にけしかけられるまでもなく、私は  
「そら、ぜひ拝顔の榮に浴さなあかんねえ」

と、持前の好奇心の虫がつぶやいた。

「そやそや。そら何でも見たり聞いたり試したりせな。  
アタック精神が肝心よ。また、女体百景が一つ書けるか  
もしれへんわよ。先生？」

「ほんまや！」  
と、その時答えた通り今、こうして「ゆうれい女」を書  
いている次第である。実は、私にとってゆうれい女には

因縁話があるのだ。



細川家は、親子二代にわたってゆうれい女にたたられているのである。私がまだ学生時代で、親父は女専の教授をしていたのだが、某ゆうれい女にほれられて、その追いかけて回された様はスサマジイものであったことを思い出すのである。

父が、朝出ようとしてしていると突如、彼女の襲来を受けて玄關でつかまりおふくろの手前を取りつくろうのに困り果てていたことがあった。

おやじは、駅で待ちぶせるようになった彼女をさけるのにも苦労していたようだ。しかし、駅で会えないと知った彼女は、夕方わが家の玄關先で、何時間も父の帰りを待つようになった。しかも時々しくしく泣くばかりで家族には訳のわからないこともあった。やがて彼女は来なくなつたが、彼女が50、60歳になるまで長文のラブレターは一年に何度かわが家のポストに投函されたものである。ゆうれい女は、要はシツコイのだ。それは人事ではなかった。ゆうれい女には好みがある。ひたいが、ハゲ上がつてお腹のでっぱり出たタイプが好きらしい。

「先生！、私の好きなタイプだわ。好きになったらどうしよう？」

というのが、私が最近出会った若いゆうれい女の初対面のせりふであった。妻帯者にとってしつこく、ほれられるということは、複雑である。よしあしである。うれしさに違いないのだが、ゆうれい女は、

「奥さんと別れて、私と結婚してちようだい！」  
といいかねないのだ。

「もうそろそろ彼女の出る時間やわ」

と助手席のK子嬢。車はもう問題のビルの谷間についていた。「いるいる！」とK子嬢の興奮した声。

たしかに、ゆうれい女はK子嬢のマンションの入口でうつむいてビリ動きもせず一点を見つめて立っていた。やせた白いワンピース姿が、いたいたしかった。顔はくらくて定かでない。△ゆうれい女？▽

私は、しょうこりもなく車を降りてK子嬢に続いた。

兵庫県肢体不自由児協会創立20周年記念

# あひるの靴

アンデルセンの一生

作・水上 勉 脚色・小松幹生 演出・水上 勉、宮永雄平

「私の生涯は一篇の美しい童話である」  
デンマークの貧しい靴屋の息子に生まれた童話の王様、

小鳥や虫たちに天真に語りかけた詩人、  
ハンス・クリスチャン・アンデルセン

薄幸な生を受けた少年の

心の軌跡……



水上勉主宰  
劇団三蛙房 旗上公演

9月24日〈水〉 11:30PM

9月25日〈木〉 11:30PM/6:00PM

兵庫県民小劇場

2,000円

24日は水上勉の講演と演劇

25日は演劇のみ(2回公演)

- 神戸っ子読者 5名様をご招待  
ご希望日を明記のうえ、神戸っ子編集部までハガキで
- 神戸っ子読者 割引優待致します  
電話でお申し込み下さい。2,000円を1,800円に割引

主催/(財)兵庫県肢体不自由児協会 ☎241-9907

後援/神戸新聞厚生事業団

ハイセンスの紳士服で  
最高のおしゃれを

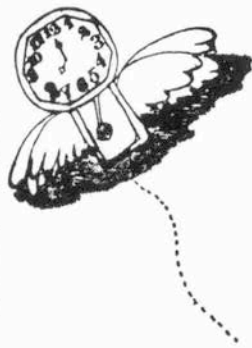


## 三恵洋服店

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290



# 神戸百店会 だより



## ★三宮センター街の カラー舗装工事進む



センター街カラー舗装  
完成予想図

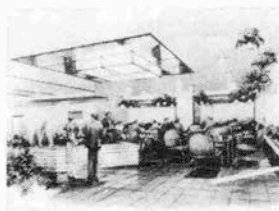
三宮センター街1丁目のカラー舗装工事が、ポルトピア®に向け、山田工務店の施工で、十月中旬完成を目指して進められている。以前のタイルに変えて、

インドの赤い花崗岩と小豆島の白黒の御影石を敷きつめた様子は、赤い絨毯のよう。非常にかたい石を使っているで、半永久的なものになる予定。「とても歩きやすくなった」と好評。「神戸の表玄関といわれているセンター街だけに、神戸にふさわしい顔を作りたい」というのが山田理事長の考えだ。

★オリエンタルホテルに  
シティ派コヒーハウス  
オリエンタルホテル1F

に新しくオープンしたコヒーハウス「ELITE SEVEN」がシティ派アダルトの人気を呼んでいる

7AM~10AMはバイキング形式、10AM~11AMは朝定食、11AM~9PMは喫茶タイム、9PM~12PMはスナックタイムとなっていて、早朝族から深夜族まで利用できる、明るい雰囲気できつろげる憩いの場になっている。



シティ派のコヒーハウス  
「ELITE SEVEN」

また8月に、二階大宴会場の内装と三階の改装が終了した。三階は客室を小集会場に変え、小会議、20名程のパーティ、見合い等に利用できるようになった。

## ★大丸前「ヨシオカ」新装

はクラシカルモダンに神戸の手づくり靴の大丸前「ヨシオカ」(吉岡潔社長)が、シシヤクドーの後を買い受け、倍の広さで九月十二日オープンする。



ヨシオカ改装完成予想図

トラバーチとガラス木を扱ったクラシカルモダン調。ヨシオカオリジナルが数多くなり

バリー、ヴァレンチノ、パツカリー、タベルナ、ブツケリー、モルスキー、ゼニス等紳士婦人靴の本格派登場だ。二階「ボロ」はシックなテイラーームに。

★ウネ本店が改装オープン  
「新しい器に長い歴史」をキャッチフレーズに、元町一番街の老舗ウネが今月中旬装いも新たにオープンする。

外、内装の設計を担当した武田則明さんは「ウネの伝統を生かし、紳士服のもつ重量感、重厚さから生じる、風格、ホリの深さを際立たせるため、外装を黒い大理石でまとめ、内装は壁の木肌を基調に明るく、男性的なムードの店に」と設計のネライを語っている。

## ●シヨップトビックス

★きもの工芸 ちんから屋の第54回秋の珍展会が、9月12日から16日までセンター街店一、二階サロンにて開催。同時に佐賀錦作家の野村静枝作品展も開かれます。どうぞご覧ください。

★衣服のみよしや「秋物豪華展」を9月12、13日、農業会館1Fにて開催。きものファン必見。

★六甲オリエンタルホテルのさわやかパワはいかがでしょうか。期間は9月7日~9月30日まで。

1泊2食 お1人8000円(税サ込)ご予約は2名以上で受け付けています。ご利用下さい。

★画材・装束の末精製部が9月2日・3日、農業会館1Fにて、第3回顔料・絵画総合見本市を開催します。出展品目は、油絵・色紙・油絵・複製画・掛軸など。

★婦人靴のジョアンナサンブラザ1Fが、9月13日改装オープンします。大理石を使い、落ち着いたムードのインテリアで、アダルト志向の店(イメージチェンジ)をはかります。姉妹店「ブラザックジョアンナ(センター街2F)」も改装。9月1日オープンします。神戸っ子に合ったハイセンスなファッションを選んで下さい。

★リザ・サロンの神戸本店(セントアラソ)にて9月7日1PM、4PMの2回「第1回秋冬ファッションショー」を実施します。テーマは「秋・シシヤル」にしてモダンに「秋のファッション」を先取りして下さい。

★カスカードよりパンの新製品のお知らせ。ソフトマロンは女の子に大人気のマロンとアーモンドのハモニー。¥1200 ソフトレ

イズンはラム酒につけられたかわい

いレーズン入り。¥1100 ソフト

チョコレートは上にかがり効いた

¥1100 つぶつぶ

栗を入れたパンをクレーン状に巻

いたソフトクレーン(さんぽラザ

店のみで販売) ¥1100

# ポケットジャーナル



## ★生活文化の創造めざして 兵庫県芸術文化祭

県では多くの県民にすぐれた芸術を鑑賞し創造活動に参加する機会を提供するために、毎年秋に芸術文化祭を催しているが、今年は左記の日程で行われる。



丹波夜能

9月13日／丹波夜能(篠山春日神社)  
10月10日／県民茶会(姫路の護国神社)  
10月12日／赤とんぼ音楽祭(母親コラス大会、高砂文化会館)  
10月15日／文化座公演「花咲くチェリー」(八鹿町民会館)  
10月26日／県民川柳大会(宝塚ベガホール)  
11月9日／県民俳句大会(宝塚市民会館)  
11月23日／県民短歌大会(三木市中央公民館)  
11月下旬／兵庫県いけ花展(大九神戸店)  
生活に根づいた芸術文化の振興をはかるのが目的というこの芸術文化祭、更に多くの県民の参加を呼びかけている。

## ★皇太子ご夫妻、献血大会 に出席のため来神



献血センターで  
ご夫妻

献血を国民運動として更に発展させるため、第十六回献血運動推進全国大会(厚生省、日赤、兵庫県など主催)が全国各地から二千名の参加者を集めて、7月23日神戸文化ホールで開催された。皇太子ご夫妻は、この大会に出席のため、来神。県赤十字血液センターで視察の後、大会に出席され励ましの言葉を述べられた。大会終了後、お二人はオープンしたばかりのグリーンプミア三木で一泊され、翌日帰京された。  
★さんちか5年ぶりに改装交通センタービル、さんちかタウンの改装工事が終了、今月12日、午前10時にオープンする。今回の改装は、より暖かな雰囲気を感じ出すため、前回手をつけ



新谷英子さん

壁面を、バラ色のイタリヤ産大理石

「ローザ・ベルリノー」にはり替える工事を中心。また、彫刻家、新谷英子さんの、ブロンズと特殊ガラスを用いた壁面彫刻「アラバスク」が、新たに据えられるのも話題の一つだ。  
さんちかは、ポートピア8を迎えるにあたり、三宮の玄関としてふさわしい装いをこらすことになる。

★レディース専門の百貨店  
オ・ブラントン来春開店  
ダイエーがフランスの有名百貨店オ・ブラントンと業務提携して設立した新会社、オ・ブラントン・ジャパン(田辺寿社長)の一号店が、来年3月開店をめざして準備を進めている。



三宮ターミナルビル予想図

建設中の三宮ターミナルビル(国鉄三ノ宮駅)の地下2階から地上3階まで店舗にする予定で、婦人衣料を中心に女性性が楽しく買物できる店舗づくりをねらっている。

★「アラブ友好の会」で  
リビア駐日大使が講演  
神戸輸入促進フォーラム  
入理事長田嶋克己Vの主催

誕生日  
ありがとう  
運動



九月は、精神薄弱者  
愛護月間

九月は、精神薄弱者愛護月間で、みなさんも、ちえおくれの問題を、他人事としないでわが事として主体的に受けとめてください。そして、何か具体的なことを実践してください。

ところで、本運動へは、全国各地のみなさんから、あたたかい心のこもったお便りを毎日約二十通くらいいただきます。最近到着便の中から一、二紹介いたします。  
◇七月七日の朝日新聞の「天南人語」を読んですごく感動しました。「蚊の謎」氏が、十五年の間ずいとお金を送り続けたなんて私にはとてもできない事です。他の人は「恵まれない子どもたちがかいりうだ」にかかっているが、あまり行動に移した人はいないと思います。その事を考えるとも自分が悲しくなります。私はあまりにもその事について知らなかったし行動に移していないからです。何かしよう、と考える考えぬきまして、私が、これくらいしかできません。この千円は今月の私のおこづかいです。何かにお役だてください。東京都町田市立鶴川小学校六年(中原秋呼)

◇先日、日本経済新聞にて「誕生日ありがとう運動」というすばらしいボランティア活動なされていることを知り、私も、ぜひこの運動に参加したいと、さそく筆をとりました。(後略)「ギリス・ロンドン」小野千恵子  
誕生日ありがとう運動本部  
681神戸市東灘区御幸通八十一番六  
682神戸市東灘区三宮三ノ宮  
電話二五一八六一一内線三六六





アラブ友好の会

第2回  
目的「アラブ友好の会」が7月23日(水)午後6時からフォーラム理事長室で開催され、リビア社会主義人民アラブ・ジャマヒリヤ国、駐日大使スリー・ペテルマル氏が出席講演を行った。出席者45名。

リビア大使は「リビアは緑の革命―社会主義・統一・自由を実現させるために努力しており、国づくりの重点を農業においている。日本との文化交流と技術交流に期待している」とリビアと日本の友好を熱心に呼びかけた。

★元町ジェムに開設、よみうり文化センター



油絵の講座  
うり神  
戸文化  
センター  
が元町・ジ

エムビルの5Fにオープンした。絵画・洋裁などの文化講座、写真・俳句などの教養講座、健康・スポーツ講座、子供レディスカレッジ講座、香水学入門などの37講座が8月27日より開かれていく。若い女性層に人気の出そうな内容である。

★焼き物に情熱をもちやす  
神戸陶芸の仲間たち

土と炎の魅力にひかれて焼き物を楽しむアマチュア陶芸家たちが自主的に集まり展示即売の会を持つ。9月9日から14日まで、ひこばえ画廊で開かれる「神戸陶芸六人展」(石田克郎、徳山耕造、近藤漱二、山下照子、酒井重治、吉田三郎)がそれで、グループとしては5回目の展示会。いずれもミドルエイジの作者たちが頑張っている。

連絡先、神戸市垂水区泉ヶ丘1の2の17酒井重治、751-6282

★バリで頑張る  
松谷さんより吉報



松谷武判さん  
武判さん  
(在バリ)

第7回国際リビカ・デッサン・オリジナルビエンナーレ展に鉛筆ドローイングを2点出品し、見事に国際審査員賞を受賞された。展覧会は7月2日から9月30日までリビカ近代美術館で開催。松谷さんは7月初めより復活祭までベルギー・ヘンルケスクリーンの講習に出かけられ、パリに戻られて受賞を知らされたとか。秋には帰国される予定。

★松本幸三・花柳芳敏恵  
ジョイントリサیتال



関西二期会の松本幸三さんが、日本舞踊の花柳芳敏恵さんと「日本の心を求めて」歌曲と舞踊のジョイントリサیتالを10月3日(金)に県民小劇場で開く。

第1部は歌曲で「平城山」「時雨によする叙情」を松本さんが。第2部は清元「名寄せの寿」長唄「新曲浦島」を花柳さんが。第3部は創作「つるの世界」を木下順二のタ鶴をもとに矢野正文さんが作曲。松本さんの唄で花柳さんが踊る野心作。芳敏恵さんは花柳楽座門下のベテランだが、この新しい試みに、松本幸三氏との間にどんな出合いの面白さが表現されるか楽しみ。二千円 午後六時より

★エロスの園へ  
甘美なるいざない  
個性ある出版でファンの多い奢都館(さばとやかた)から「バイロス画集」第II集がこのほど出た。



バイロス画集より

この集にはバイロスの本領を発揮したファニー・ヒル、マノン・レスコーなどの挿絵や蔵書票が主に収められ、第I集と合わせて淫蕩・典雅なエロスの饗宴が読者をしてめくるめく桃源境へと誘うであろう。バイ

# 美術ガイド



★興立近代美術館  
小出橋重展 9/21-9/28  
金山平三・芝居松・水彩展 8/5-9/28

★西宮大谷記念美術館  
「辻が花染の美」展 9/6-9/28

★ギャラリーさんちか  
第7回現代彫刻エキスコース展 9/12-9/21  
日独児童生徒絵画展 9/23-9/29

★画廊錦  
つくりまし展 9/11-9/16  
小林欣子個展 9/25-9/30

★ギャラリー神戸時代  
JACK PAUL MAROON展 9/1-9/30

★ギャラリート  
布花展・原画八千代グループ 10/3-10/9

★声屋ギャラリー  
スイミー版画展 9/6-9/14  
★キタノサカス  
今井祝雄展 9/9-9/10

★吉野義隆  
吉野義隆法隆寺展 9/23-9/24  
★そころ神戸店美術画廊  
現代志乃作陶展 9/5-9/10

★十二代田原陶兵衛茶陶展  
木工芸の粋―ろくろと木竹象嵌の技―伝統工芸作家川北良造・福田芳則2人展 9/19-9/24

★第三回備前焼三村陶伯陶展  
第3回備前焼三村陶伯陶展 9/26-9/27

★大丸神戸店美術画廊  
市野弘之陶芸展 9/4-9/9  
萩焼新鋭作家陶芸展 9/11-9/16

★京都俊英作家五人展  
京都俊英作家五人展 9/25-9/30

★大丸洋画展  
大丸洋画展 9/21-9/28

★三越神戸店美術画廊  
物故作家陶芸展 9/2-9/14  
昭和世代洋画俊英作家展 9/16-9/28

ロスと並ぶ世紀末三大画家の残る一人であるフェリシアン・ロップスの画集もこの秋に出る。世紀末の頹廢と悪魔主義を代表するといわれるロップス画集の出版はその道の愛好家にとって待望久しかったものだ。

へさばと館V東灘区鶴森台3-14  
11 電話811-7503

★パントマイムジュンズの岡田淳さんが本を出した



岡田淳さんの学校と気からは

放課後の学校と気からは、昼間の活に作家の水上げさんが主宰する劇団三蛙房の「あひるの靴」アンデルセンの一生を上演する。劇団三蛙房では、東京に車イス劇場を作ろうという運動を起こ

## 花時計



「地方の時代」とは

世界的な歴史学者として有名なアーノルド・トインビー氏は「地球上の地域社会の文化・経済・政治を支えてきたのは地方の都市であり、それは21世紀に向っても変わらないう言葉は実に堂々として

地球上の地域社会とい

ネズミが出会い、毎週月曜の夜に彼ら二人の語らいが始まります。——16の短篇からなるこの物語「放課後の時間割」には、子供たちへの温かい眼が底にすえられて、読後非常にさわやかな気分。大人にもぜひ読んでほしい。

併成社刊・780円

★水上勉主宰劇団三蛙房が神戸でも旗上公演

神戸でも旗上公演 助兵庫県肢体不自由児協

という。日本でも適合する

元来、日本の都市で比較

的自立性を内蔵している

都市は上方にあったとい

われている。が、今果

してどんなものであろう

か。世界史を広く深く渉

猟した学者が、総括して

発言した「地球上の地方



あひるの靴

し今回の芝居は旗上げ公演。日本各地4カ所で上演する。神戸では同協会が引き受け、友生養護学校と垂水養護学校の生徒たちを招待する。

「あひるの靴」アンデルセンの一生 作/水上勉 脚色/小松幹生 演出/水上勉・宮永雄平 出演/草村朱美、左桑田恒夫、橋本晴子、蔵一彦、吉田祐一ほか 9月24日(水) 1時半 25日(木) ①1時半 ②6時 兵庫県民小劇場 2000円 25日は水上勉の講演も予定される。

いう三本の柱がバランスを保って活動しなければエネルギーが生まれてこないとこのことである。

これも大切なことである。経済だけが先行しても政治だけが優先しても

おかしいことになる。

健全な都市の構図は何

といっても豊かな生活文

化が基本的にしっかりし

なければ駄目だと思う。

トインビー博士の説く

★建築家の武田明さんが事務所を移転。〒600神戸市市田区播磨町45大興ビル2F 078(392)0899 ★お菓子のコトブキの宣伝部で活躍された浜口一生さんが脱サラで独立されました。〒588大府市津の24の2 072(26)0294

★本誌動物園飼育日記でおなじみの亀井一成さんが8月末に転居されました。〒600神戸市市田区青島町4丁目8の24 066(81)06681

★アメリカ人のジャック・ポール・マリン画伯が、芦屋の愚庵自榮氏宅に遊学中。ギャラリー神戸時代で9月1日/31日まで個展を開く。

★詩人の鈴木漢さんが、3年ぶりに詩集の投影風雅を33部限定上梓した。発行所は書肆季館社名古屋市名東区神里2丁目73 書店に出回数はないとか。2800円

★彫刻家の廣嶋照道氏の住所が変わりました。〒6013神戸市北區有野台2丁目9の3 11の203 (892)7016

★建築家の武田明さんが事務所を移転。〒600神戸市市田区播磨町45大興ビル2F 078(392)0899

★お菓子のコトブキの宣伝部で活躍された浜口一生さんが脱サラで独立されました。〒588大府市津の24の2 072(26)0294

★本誌動物園飼育日記でおなじみの亀井一成さんが8月末に転居されました。〒600神戸市市田区青島町4丁目8の24 066(81)06681

## ●KOBE POST

★建築評論家の沼村南氏が移転。〒545大阪市阿倍野区北島3丁目10の16

★画家の元永定正氏は、目下ポルトガル会場、国際交流会館の国際会議場のどんちやうに挑戦中。10ミリのアルミを使った新スタイルで左右に開かれる新形式(6m×7m)又、広島は大田敏哲の社屋の外壁画(10m×100m)も制作中。8月31日に竣工式が行われる。続いて、10月23日/28日はパリのマダラン・パレで行われるフィヤックという世界画商展で大阪のカサハラ画廊が「元永定正展」を開く。パリに行かれる方はぜひお立ち寄りのほど。

★一九七七年度の神戸市文化奨励賞を受けた友生養護学校の新谷英子さんが、ヨーロッパ研修の旅から帰国。帰朝報告をかねて「いぶし銀の古都」と題した本を上梓した。その出版記念会が生田神社会館で、9月30日(火)午後6時より開かれる(会費は6500円、本代を含む)。又、さんかタウンの15周年に、ガラスと青銅から出逢いによるモニュメントを制作中だ。

★アメリカ人のジャック・ポール・マリン画伯が、芦屋の愚庵自榮氏宅に遊学中。ギャラリー神戸時代で9月1日/31日まで個展を開く。

★詩人の鈴木漢さんが、3年ぶりに詩集の投影風雅を33部限定上梓した。発行所は書肆季館社名古屋市名東区神里2丁目73 書店に出回数はないとか。2800円

★彫刻家の廣嶋照道氏の住所が変わりました。〒6013神戸市北區有野台2丁目9の3 11の203 (892)7016

★建築家の武田明さんが事務所を移転。〒600神戸市市田区播磨町45大興ビル2F 078(392)0899

★お菓子のコトブキの宣伝部で活躍された浜口一生さんが脱サラで独立されました。〒588大府市津の24の2 072(26)0294

★本誌動物園飼育日記でおなじみの亀井一成さんが8月末に転居されました。〒600神戸市市田区青島町4丁目8の24 066(81)06681



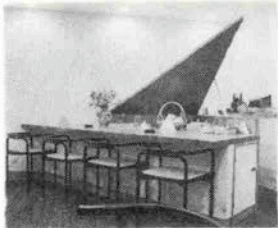
## ぴっと・いん



### ★北野町らしいカフェ

ローズガーデンのエグロ  
ローズガーデン1Fにカ  
フェエグロが6月にオー  
プンした。グラフィックデ  
ザイナーの藤谷明正さんが  
デザインしたインテリアは  
レンガと白木の色が鮮やか  
でシンプルだけどとてもモ  
ダン。中庭にもテーブルを  
置いていてまさしくフラン  
スの「カフェ」ムードだ。

メニューもやっぱりフラ  
ンス風で、6種類のオムレ  
ツとクロワッサン、そして  
もちろんエグロ自慢のソー



モダンでシンプルな店内

ロビアンコーヒー。  
カウンターと可愛いテ  
ブルの、こじんまりとした

つくりもローズガーデンに  
びったりの雰囲気。カウ  
ンターの奥にピアノの蓋を模  
した棚があって、お酒の壺  
が並んでいる。

★アンテナノールの味を  
教えます  
北野坂のケーキ屋さんア  
シェフの山川さん



シェフの山川さん

ンテナノールがお菓子の教室  
を開いている。先生はシェ  
フの山川さん。毎月1つお  
菓子を決めて(8月は洋梨  
のタルト、9月はスイスの  
お菓子)6人以上の希望者  
が集まれば随時開催。特に  
デザート類には自信がある  
という山川さんが秘訣を教  
えてくれるのだから、お菓  
子作りの好きな人にはとて  
も好評だ。  
希望者はアンテナノールに

電話予約をして下さい。

レッスン時間/11AM/12PM  
レッスン料/1回3000円  
アンテナノール 北野坂ビルサイドテ  
ラス1F 電話/37997

### ★トロピカル・カクテル

神戸から三人が入賞  
サントリー主催の「トロ  
ピカル・カクテル・コンテ  
スト」の近畿地区大会が7  
月5日に開かれ、337名

432点の応募の中から残  
った20点が最終審査とし  
て参加した。その結果、神  
戸関係では木村義久さん入  
賞、サウオイVの「キューパ  
の太陽」がグランプリを獲  
得したほか、岡善雄さんハ  
スナック龍野Vの「フラワ  
ーロード」が金賞、大月一  
成さんハセカンドチャンスV  
のフローズンサマーが努力  
賞を得た。

「フラワーロード」を手にする佐治  
サントリー社長とトロピカルギャ  
ルのキャサリン。右が岡さん。



また「フラワーロード」  
は、サントリーのポートビ  
ア'81用として、「ポートビ  
ア記念カクテル」にも選ば  
れ、7月30日に開かれたサ  
ントリーのバビリオン起工  
パーティーで発表された。

### ●神戸うまいもん とドリンキング

キャンデー

生田新道レンガ路角  
ニューアンカビル3F  
電話/39213606

ママの笑顔がステキな  
キャンデーが満一周年を  
迎えた。

感謝を込めて日頃のお  
客さまを迎えての一周年  
記念パーティーが七月二十  
三日に開かれたが、当夜  
はミドル・エイジのおじ  
さま族から若者まで一二  
〇人が参加して大盛況。



1周年パーティから

秋からはピアノの弾き  
語りでは神戸No.1の高瀬  
芙紀子が入り、ジャズ、  
ポピュラーにその冴えを  
みせ、また、興がのれば  
ママの山本恵子さんも自  
ら演歌の弾き語りを披露  
するとか。

ロマンと夢と音楽のあ  
るキャンデーで大人のメ  
ルヘンを……。





1980.10.10

# 暗葉樹

刀禰喜美子

絵／南和好

連載小説〈第Ⅲ回〉

両親の前での木谷は、伸子の裸身の上でバツの悪そうにふっと焰を消した弱さはなく、威厳を以て父に告げていた。その泰然とした木谷をねじりつづぶしたい憎悪にかなれながら、伸子は黙って頭をさげているより仕方がなかった。真相は隠されているから、娘の非を詫びて平身低頭している父を哀れと思いながらも、どうすることもできない。

三日後に終戦となった。伸子は停学処分を受けたと思ひ込み、木谷のいった通りに三週間の謹慎後、学校へ行ってみると、単なる病欠欠席になっていた。木谷が停学処分の手続きを取る暇もなく、世の中が大きく廻転した。家を焼かれて田舎へ行っている者、死亡した者、怪我をした者、病気の者など欠席者が過半数で、教師達も欠勤していて、伸子の欠席理由など詳しく訊ねなかった。とにかく何もかもが混乱状態で学業などを真面目に口にするのがおかしかった。木谷は教練の教官であったから、もう用なし、と級友達はせいせいしたようにいった。校内で姿をみかけなかったことが、伸子の心を和らげた。

アメリカ兵進駐の前に女は山へ逃げなければ、みんな暴行を受けるという噂でもちきりであった。そのために疎開先の田舎へわざわざ逃げた友達もいた。伸子は木谷と同じことをこの上は何度受けても大したことじゃない、といった捨鉢な気持もあって、三つ編にしていた髪を短く刈り、制帽をま深にかぶって登校した。男性のような服装をさせられていたから、鍋ずみでも塗れば汚らなくて、女っぽい色気などどこから見てもなかった。

卒業後は、戦後漸く活気ついてきた呉服の稼業を手伝った。古着を集めてきて市で売買する。伸子は父についていて、それをおぼえた。病身だった母が風邪をこじらせて肺炎であつて亡くなってからは、主婦代りとしても働かねばならなかった。食べることだけで一日が過ぎた。買い出しから、それに行くための切符を手に入れる方法から、薪の采配から、水運びから、食べ物を入れるまでのことに一日の大半を潰した。人間らしい

★前号までのあらすじ 看護学校校の非常勤講師として働く伸子は戦争中、動員学徒として製薬工場の実験室に配属されていた。終戦の三日間、淡い恋心を抱いていた同僚の柴野から主任と副主任の不正を告げられ、彼女は柴野と共謀してサツカリンを持ち出そうとするが発覚する。「退学」という木谷教官の脅しに、彼女は柴野の名を口にしてしまうが、木谷は柴野を助けてやるという口実で彼女を強姦する。

生活をするために、どの家庭も夢中で、他人のことに関心を持つゆとりなどなかった。伸子はそのことでどんなに救われた。適齢期などと、干渉する者がなかったから。

十年経つと、いつのまにかウレノコリと呼ばれていた。店も軌道に乗って支店を持つまでになり、弟が父を助け一人前に商売ができる頃になって、父は伸子が嫁ぎはぐれたことに氣付いた。

「女手がなかったもので、つい娘をこきつかったしまいまして。どこかええとおましたら世話を頼みます」  
会う人ごとにいう父を見ると伸子は心が傷んだ。

——結婚を強いられなかったことを私はむしろ喜んでゐるのよ。男はみんなきらいよ。結婚はしたくないの。  
適齢期に家の犠牲になったとは思っていないのよ。実はね、木谷という……。

叫びのような告白を父に吐きだしたかった。

伸子はかつて実験室に配属される人は秘密を守らなきゃならないのよ、と級友にいわれた時、口が裂けたって守るわよ、と簡単に言い切った。だが、追いつめられていざ自分の利と他者の利とのどちらかを選ばねばならなくなつた時、伸子は自分の利をとり、秘密を守りきれなかった。柴野と名を出してくれては困るなどの確約を交わしたわけではなかったが、伸子の失敗で露見してしまつた以上、柴野の名を出さないことを自らに課したのであった。それを裏切った脆さとずるさ、自分では意識していないいやらしさを、もっともつと内包しているの

はあるまいか、とどんどん内に心を閉ざしてしまうのであった。無口になっていった。いったん口を開けば何を喋りだすか知れない怖さで余儀なく無口になってしまったともいえる。

陰気で無口になった伸子を、父は父で見当違いの自責から慰めてくれた。クラス会の案内状が来るたびに、行ってこいと勧めるのだが、いっこうに行き気のない娘を見て、

「そりやそうだろうよ。友達はみんな結婚して子供もあることだろうに」

と不憫がった。弟が結婚した機会に、父は小さなマンションを伸子に購入してくれた。

家事一切を弟の嫁に任すと、伸子は急にひまになった。支店に通うことと、展示会などの催しを手伝うだけとなり、やっと心にゆとりができクラス会にでも行ってみようかという気になった。

「十五年振りに、クラス会に行ってみるわ」

と父にいうと、わがことのように喜び、呉服商だけに着ていく物にも口を挟んだ。

「男と会う時は染めの、華やかな着物がええが——」

といいだして、父は口尻を苦々しく歪めた。伸子に男気などなかったことに気付き、しまったと思ったに違いない。

「女の目のうるさいクラス会なんかは大島紬が一番や」とあとはぼそぼそと小さく呟いて、店の反物を馴れた手捌きであれこれ広げた。

最高級品を選んで仕立てさせ、朱色の派手な袋帯を合わせ、バッグや草履にまで気を配った。

「嫁入り仕度に比べたら安いもんや」

と、それを身につけた伸子を店先でいつまでも見送っていた。

クラス会では、

「さすが呉服屋はんの娘やね。ええのん着てきて」

と羨やましうという友人もいたが、そんな時でも伸

子は「娘」という一字にこだわった。軽い意味の娘なのか、バージンという意味なのか、友人たちは木谷とのいきさつをどの程度のことと思っているのか、たえずその意識がどこかに潜んでいた。

「ハイミスになってしまったもん、着るものぐらい、きばらしてえよ。ほかに何の楽しみもないよって」

伸子は常識的に答えた。毎年クラス会のあることに会っている連中は、ウールの着物やセーターといった軽い装いで、話の方に熱中していた。内心伸子の仰々しい格好を虚栄とあざわらっているのかもしれない。

伸子の久しぶりの出現で話題は動員時代のことになった。

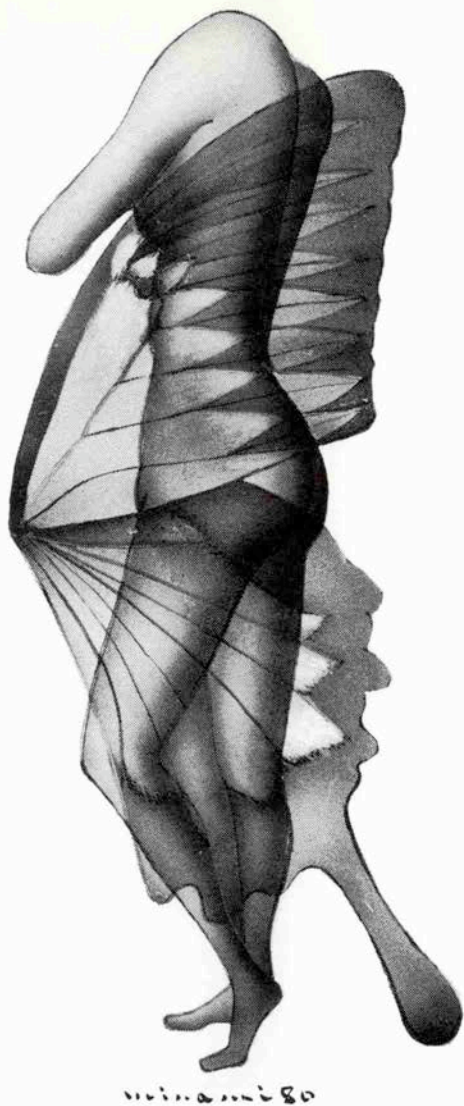
「伸子、あなた運が悪かったというか、どじだったというか、木谷の視察日に持出したりしてさ。あとから知ったことなんだけれど、生徒でも工員でも門衛を手馴つけて、砂糖、ぶどう糖、味の素、石けんなどをずい分くすねていたそうよ。私なんか糖衣錠作っていたから砂糖を持出したものよ。主任のサツカリン密造も上層部の指令だったらしいわ。大物ほど表面にはでてこないのね。生真面目って馬鹿と同義語ね」

その友人は卒業後、動員時のツテであの製薬会社に就職し内部の事情をよく知っていた。

あの当時も、それから今までも、級友達がみんな生真面目ななかで、自分一人が持出しなど大胆なことをして学校の名譽を傷つけたと思い悩んでいた伸子は、頭を一つガンと叩かれたような気がした。和子がいった。

「私なんかも、薬もらってきなくて助かるって、父にいわれたものよ。医者なのに薬の配給が少なくて困っていたから、娘の動員のお陰で病人が助かるって笑っていたわ。白髪染なんか百姓家のおばあさんにあげると、お米と取り替えてくれて、母などまたもらってきくてねって気軽にいったわ。本当はそうたやすくもらえないのよねえ。盗みに行くのよ、徒党を組んで。実験室は秘密の守れる人なんて大そうな人選をするから、実験室の秘密も





洩れないかわり、他の工場のためにも入ってこない象牙の塔だったのよ。今でいう情報不足のこと。私達が要領よく平気でやってることを、伸子ひとりが罪をかぶったみたいやねって、よくいったのよ」

伸子は十五年目に当時の実態を知らされて、幸いだっ  
たのか不幸だったのか、どっちともつかない気持ちになっ  
た。

「柴野さんっていう人、その後どうしはったのかしら」  
伸子は、今日クラス会に出席した一つの理由になっていることを思いきってきり出した。

「伸子、知らないの」

「本当は知りたかったのに、わざと聞くのを避けて今日まできたわ」

「まあ、そお。大体、持出しをしたそのことよりも、柴野さんと共犯だったことが解った時の方が私達シヨックだったのよ。ふうーん、そんな仲だったのかって、ね。羨ましいやら嫉しいたりもして。それで誰も伸子にいわなかったのね、きつと。伸子はまるで洞窟にはいったみたいに、学校のどんな会合にも催しにもいつも不参加だったし。クラス会も今回がはじめてなんだから」

和子の前置きが長いので伸子はいらだった。

「あの人はね、死にはったのよ」

「えっ！」

和子の声が急に遠のいた。一切の音が停止した。伸子は空をみつめた。蒼ざめていく伸子の顔色に、あなた、大丈夫、と和子が伸子をゆすつた。和子の説明によると、あの翌日、柴野は解雇になり、終戦の前日に自殺したとのことである。

「まあ、前日。終戦になったのに。犬死！」

伸子はその言葉がのどからほとばしった。

柴野にしてみれば、病弱で戦争に参加できないことを、不名誉だとそれを日頃から苦にしていた上の、解雇である。肺浸潤が相当進んでいて無理して通勤していたが、それも擱んで前途に失望し死を選んだのだろう。

柴野がその後どうしているかは伸子の胸から去らなかつた。今でも実験室で試験管をふつっているのだろうか。それとも薬局でも開業しているのだろうか。いつかは真相を話して、そんな犠牲をはらってくれたの、と慰めてもらうことを想像していた。木谷の乱暴を許したことを話せる相手は柴野しかない、というの程にか決めている。

た。それが伸子の隠れた潜力となつて、今まで生きてきたようなものだった。

柴野を救うつもりでしたことが何の効も奏しなかったことが口惜しかった。実験室主任は妻を亡くしたあと、副主任と結婚し今では会社の部長になつて活躍しているそうだった。たった一日のことで戦争が終り、病弱で戦地に征かなかつたことをかえつて幸せだったと考えなおせる日が来たのに、柴野がどんな心境でどんな状況で死んでいったのか、それに比べて主任の幸運を思うと、暗澹とした憤りがこみあげてきた。

自ら交友を避けていた伸子だったが、クラス会を機に和子達四、五人との交際がはじまつた。柴野の自殺を知つてから、伸子は木谷に会つて思いっきり罵倒しなければ、柴野の死が無意味に終つてしまふといった気持ちが昂まつてきた。伸子も彼を死に追ひやつた自責に苦しんだ。木谷は伸子の倍も苦しんで欲しい。柴野の名を工場側に通告したのは木谷以外にはない。伸子の怨みは木谷に向かつて凝結していった。

木谷の消息を伸子は知らない。学校と縁の切れた木谷を探し出す気はなかった。生きていくための精一杯の何年間に、それでも時々、「それとも、私の女になるか」といった木谷の言葉の思い出し、訪ねてもこられたらどうしようといった薄気味の悪さはあった。

和子がある日、おどろいた声で電話してきた。

「木谷先生がね、うちの病院に入院しているのよ。知り合いが入院したので見舞に行ったら、廊下で木谷先生をみつけたの。伸子、会ってみる？」

クラス会の帰途、柴野さんを殺したのは木谷だ、対決する、と伸子が興奮のあまり叫んだのを、和子は覚えていたのだろう。

伸子は迷った。和子の病院は精神科、神経科だけの単科であるから、木谷が患者として入院しているのなら、狂っているのは間違いない。

いつか柴野には会つて謝り、木谷には思いっきり面罵したい気持ちを擦過していく月日のあいまに伸子は内燃させてきた。あまり親しくない友人と出会つて話す時、むこうからはかつての事件に關して口を切らないが、伸子の方から話題にすると、必ず知つていて噂はかなり広範囲にわたつていようだった。陰では何をいわれているか解らないやりきれなさを、伸子はいつも味わうのだった。更にその奥のもう一つの真相にまで話が發展しているのだろうか、そのことはさすがに自分の口からいい出し得ないもどかしさを、伸子は何年も抱きかかえていた。地下壕で受けた行為をそっくりそのまま、木谷に返却することが可能なら、伸子の方が優位にたつて木谷を憎伏させたい欲望すらあった。柴野の死を知つてその気持は強くなつていた。

木谷が狂人になつていられるかもしれない事実は、伸子の狂暴なまでの憎悪の熱塊に水をかけられたようなものである。躊躇した末、やはりこの眼で木谷を見てやろうと思つた。

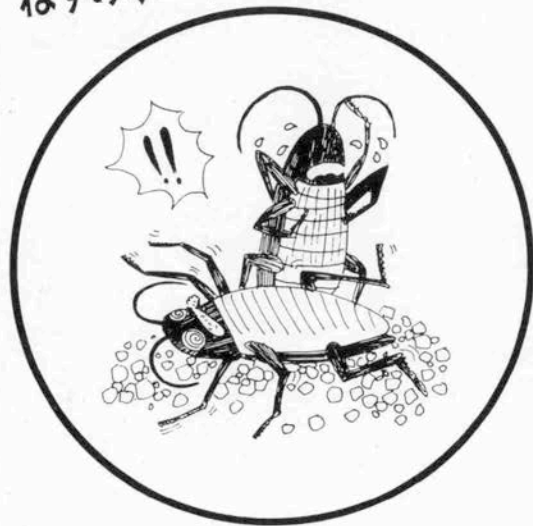
病院に着くと、和子は住居と病院とが近いの、といつてもう来て待つていた。

木谷はアル中患者として入院を繰り返しているそうで、今の時間帯は作業病棟で作業中らしいわ、といつた。

「折角来たのだから会つていったらいいけれど、向こうは誰だか判別がつかないわよ。木谷先生に一度会いたいていうあなたの方の気持、解らなくはないけど、過去にこだわるのは明るかつた伸子らしくないわ。古いことは切り捨てないと前進はないのよ」

病院長夫人らしく、ふとり気味で貫禄のある和子の言葉は重みがあった。伸子は急にみずばらしい自分を感じた。和子は過去にこだわっている伸子をいじましいとしか受け取っていないだろう。世の中がどんどん変わっていくなかで、伸子はまだ過去の頸枷からのがれられないでいた。

—飲食店は清潔第一!—  
ねずみ、ゴキブリ撃滅大作戦!



●これからの店の衛生管理はトータルサニテーション（殺菌、防カビ、防殺虫、防ねずみ施工）の時代です。

●店舗、住宅を微生物（細菌、黴）微細害虫（ダニ、コナダニ類）、衛生害虫（ゴキブリ、ねずみ）、建物害虫（シロアリ、木喰虫）、衣類害虫（イガ、カツオブシムシ）からお守りします。

●書籍、骨董品、段通、毛皮製品等の保管についてはご相談ください。（相談無料）

**三洋化工株式会社**

神戸市生田区中山手通1丁目75

電話(391)3195(代)・(331)6619・(321)2727

**旅**の味わい、**旅**のころ

旅本来のあるべき姿を求めて……  
全国のタウン誌が連帯してつくる

●地域文化のネットワーク

月刊 **旅行アサヒ**

9月号 有名書店で好評発売中

定価 **780**円（送料160円）  
年間購読料 9,360円

●地域の新鮮な情報を満載●

9月号では—— 特集/宮崎〈神話のふるさと高千穂〉

巻頭随想/井出孫六 日本の旅情/「瀬戸内讃歌」

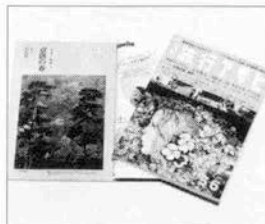
スケッチの旅/佐藤忠良

対談/旅三昧・團伊玖磨 vs 朝比奈隆

10月号予告（9月15日発売予定）

●対談/西丸震哉 vs 高峰秀子 ●巻頭随想/田宮虎彦

●俳人の旅/山口鶯子 ●特集/「奈良」



●お問い合わせ、お申し込みは  
神戸市生田区東町113-1  
大神ビル7F  
月刊 **神戸っ子**  
☎078-331-2246